

「神奈川県庁フードドライブ」実施結果

1 事業概要

SDGsの理念の実現に向け、一人ひとりが身近な課題を自分事化し、行動につなげるため、具体的なSDGsアクションとして、神奈川県庁において、生活困窮者対策の解決の一助となる「フードドライブ」を実践した。

2 実施結果

- (1) 実施期間 令和3年8月24日～9月3日（9日間）
- (2) 回収実績 1,094品、約416kg（段ボール40箱）
- (3) 主な回収食品 缶詰、レトルト・インスタント食品、お菓子、米、乾麺等
- (4) 回収ボックスの設置（4か所）

本庁舎及び新庁舎の執務室内、
新庁舎及び東庁舎1階エントランス

(5) 職員への周知

- 庁内電子掲示板への掲載
- 知事メッセージ動画の配信
- 庁内放送及び幹部会議での周知
- 案内看板、のぼり旗の設置



回収食品

回収ボックス

3 フードバンクへの提供

令和3年9月8日、(公社)フードバンクかながわを訪問し、回収食品を提供した。フードバンクかながわ 藤田事務局長から、「食品が不足する中で大変ありがたい。県庁の取組をきっかけに、フードドライブ活動がSDGsとともに、県内で広がっていくことを期待したい。」とのコメントがあった。

4 アンケート調査結果及び課題（詳細は別紙参照）

フードドライブに関するアンケート調査を実施したところ、次のような結果であった。

- アンケート回答者数は589名。（参加者111名・不参加者478名）
- 多くの職員が、普段から利用する「庁内電子掲示板」を通じて今回の取組を知り、困っている人の役に立てるという趣旨に賛同して寄付をした。
- 今回の取組を通じて、自身や家族の行動変容に繋がった人が7割近くを占め、特に「子ども食堂の活動や生活困窮者などへの支援、食品ロス削減への関心」に繋がったという意見が182件寄せられ、一番多かった。
- フードドライブに参加する際、寄付の方法（寄付できる食品等）や回収場所、どのような食品が喜ばれるか等の情報が参考になったという意見が多かった。
- 今回の取組により、食品ロスや貧困対策について、具体的な行動に移せていなかった職員が手軽に参加できたという、取組に対する肯定的な意見が多かった。

5 今後のフードドライブにおける改善点

アンケートで寄せられた課題点から、今後は次の点を改善することを検討する。

【周知・呼びかけについて】

- フードドライブの周知の際、食べきれない食べ物を寄付したり、自ら食品を購入して寄付することで、子ども食堂の活動や生活困窮者への支援に繋がることを示す。
- フードドライブの説明とともに、「困っている人へ食品を寄付しませんか」等のわかりやすい言葉を併記して、寄付を呼び掛けることが効果的である。

【周知・実施期間について】

- 周知期間を長め（1週間程度）に確保することで、参加者が食品を準備する期間を設ける。
- 実施期間については、賞味期限等との兼ね合いもあるが、十分な期間を設けるよう検討する。

【フードドライブの回収拠点について】

- フードドライブに参加しようとする意欲のある人を取り込むため、フードドライブを実施している食品回収拠点は、職場に限らず、県内各所にあることを周知する。拠点の一部を掲載した県ホームページを活用する。

【回収ボックスの設置方法について】

- 回収ボックスを受付機の上に設置するなど、食品を扱っていることに十分留意するとともに、参加者が食品を入れやすい回収ボックスの形（例：投入口が大きく、頑丈で、すでに寄付された食品が見える形状等）を採用する。

以上